

2022（令和4）年度  
大阪府内地域連携プラットフォーム  
事業報告書  
（2022年4月～2023年3月）

2023（令和5）年3月

## 課題 1 大学と高校の有機的な接続・連携の強化

月	会議	行事等
4		HP オープンキャンパス情報の常時掲載
5	第 1 回推進委 (30 日)	
6		共通大学案内ブックレットの作成・配布 (7 万部) 大阪の大学「学び」WEB フェアの常時掲載
7	第 1 回部会 (25 日)	
9		高校生応援プロジェクトの開催 (HP)
10		第 1 回高大連携フォーラム (13 日)
11	第 2 回推進委 (8 日)	
1	第 2 回部会 (23 日)	
2	第 3 回部会 (書面開催: 14~21 日)	
3		第 2 回高大連携フォーラム (6 日)

取組 1 高大連携フォーラム [https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/koudai\\_forum](https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/koudai_forum)

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高大双方が高大接続の大きな環境変化に関する情報を共有している。</li> <li>・ 高大接続の諸問題を高校と大学が対等な立場で継続的に検討している。</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活用割合: 会員大学数の 60%以上の参加大学数/各年</li> <li>・ 参加者比率: 大学と高校からの参加者数が同程度/計画期間内</li> </ul>
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開催回数: 1 回以上/各年</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 回開催 (第 1 回: 2022 年 10 月、第 2 回: 2023 年 3 月)</li> </ul>

- ・ 大阪府内の高校、大学における喫緊の課題をテーマに取り上げ、情報共有や効果的な連携方法について模索する場として「高大連携フォーラム」を開催している。
- ・ 今年度は「高大接続からみた探究活動」をテーマに、オンラインにて 2 回にわたりシリーズ開催した。

### 《第 1 回実績》

<p>テ ー マ: 高大接続からみた探究活動            開催日時: 2022 年 10 月 13 日 (木) 18:00~19:30            講 演: 高大連携は大学負担?                  ~ 高校における探求学習の事例から考える、サステナブルな高大連携の具体的な方向性~            講 演 者: 株式会社 Study Valley 代表取締役 CEO 田中 悠樹氏            参加者数: 75 人 (大学: 58 人 ※うち会員 18 大学 35 人、高校: 7 人、その他 10 人)</p>
--

### 《第 2 回実績》

<p>テ ー マ: シリーズ 2 高大接続からみた探究活動            開催日時: 2023 年 3 月 6 日 (月) 18:00~20:00            講 演: 「教職協働で育てる『高大接続』—探究学習支援から教育共創へ」            講 演 者: 大正大学 理事長付特別補佐 (高大接続担当) 山内 洋氏                  大正大学 総合学修支援部 部長 君島 菜菜氏            参加者数: 44 人 (大学: 39 人 ※うち会員 13 大学 20 人、高校: 5 人)</p>
---

取組2 会員大学情報の発信

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校生のニーズが高い情報を厳選して会員大学から収集している。</li> <li>・ 高校生に届きやすい方法で会員大学情報を発信している。</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活用割合：会員大学数の80%以上の大学数／各年</li> <li>・ ホームページの該当ページの閲覧数：倍増／計画期間内</li> </ul>
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施回数：1～2回／各年</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4回実施（共通大学案内ブックレット、オープンキャンパス情報、学びWEBフェア、高校生応援プロジェクト）</li> <li>・ 会員大学によるHPの活用割合：100%（39/39校）</li> <li>・ 高校生カテゴリページ閲覧数：5,952回（1/31までの集計）</li> </ul>

【オープンキャンパス情報】 [https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka\\_univ](https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ)  
 会員大学のオープンキャンパス情報を大学コンソーシアム大阪のホームページに一元化し、高校生が大阪の大学のオープンキャンパス情報にアクセスしやすい工夫を行った。

【共通大学案内ブックレットの作成・配布】  
<https://www.consortium-osaka.gr.jp/images/web/osaka/webfair/booklet2022.pdf?1673938985>  
 会員大学の魅力を広く発信するために「共通大学案内ブックレット」を作成し、学生が自大学の魅力の紹介や、会員大学の学生による座談会記事を掲載するなど、内容の充実に努めた。  
 ブックレットは、大阪府教育委員会等や会員大学の高校訪問時での配布などの協力を得て、これから本格的に進学先を検討する高校2年生を対象に約7万部配布した。

【大阪の大学「学び」WEBフェア】 [https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka\\_univ/webfair](https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ/webfair)  
 会員大学の魅力発信の取組の一環として、大学コンソーシアム大阪のホームページで会員大学合同の説明会を実施し、情報を常時掲載する形とした。

【高校生応援プロジェクト（旧称：高校生「学び」応援プロジェクト）】  
[https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka\\_univ/project](https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ/project)  
 大学コンソーシアム大阪のホームページで、会員大学の「学び」に関する動画コンテンツを集約したページを設置した。今年度は22校からの動画提供を受け、公開した。

【高校生の進路検討に関するニーズ調査の実施】  
 高校生の進路検討にあたっての動向や会員大学の提供情報などに関する要望等の把握を目的に、大学コンソーシアム大阪のホームページ上および共通大学案内ブックレット内にて実施した。

※上記の取組は、私立大学等改革総合支援事業（タイプ3）の加点に向けた取組とも連動している。

大阪の大学「学び」WEBフェア HP



共通大学案内ブックレット



## 課題2 単位互換プログラムのさらなる充実

月	会議	行事等
4		前期開講（センター1科目）
5	第1回推進委・単互実務委合同会議（20日）	
7	第1回部会（7日）	
8		追加募集科目 出願開始（25日） 集中科目開講（センター1科目）
9		後期開講（センター10科目）
10	第2回推進委・単互実務委合同会議（21日）	
12	担当者説明会（2日※オンデマンド開催）	「単位互換制度に関する学生のニーズ調査」実施（1日～1月末）
1	第2回部会（16日）	
2	第3回部会（書面開催：9～16日）	
3		2023年度科目出願開始（15日）

### 取組1 単位互換事業 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/tg>

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター科目と各大学が担当するオンキャンパス科目の役割やねらいが明確になっている。</li> <li>・各大学の強み、ネットワークを活かして「大阪の特徴・魅力」を総合的に学べる機会を提供している。</li> </ul>
数値目標	・学生送り出し校数：包括協定校の60%以上の大学数／各年
活動指標	・実施回数：1回／各年
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回実施</li> <li>・学生送り出し校数：包括協定校の52.6%（最大20/38校）</li> </ul>

包括協定校数が2022年度現在で大阪信愛学院大学、大阪体育大学、宝塚大学が新たに参画し、38校（大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学1校として計上）となった。

さらに、6月には南大阪地域大学コンソーシアムとの広域単位互換実施に関する協定を締結し、今年度は各コンソーシアムから1科目ずつ提供している。

#### 【センター科目】

- ・科目数は、後期に新規包括協定締結大学による1科目、広域単位互換科目（南大阪地域大学コンソーシアム提供科目）の1科目が加わり、計12科目となった。
- ・出願者数は前年より大幅に増加して559人、前年比118.6%となった。

#### 【オンキャンパス科目】

- ・科目数は、新規の包括協定締結大学からの提供科目も加わり、計367科目となった。
- ・出願者数は前年より増加して299人、前年比179.0%となった。

#### 《実績》

- ・出願者数は受講許可者数を示す。
- ・2022年度は協定校として大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学はそれぞれ1校として計上。

		2021	2022	当年-前年	前年比
センター	科目数	11 ※うち2科目は開講中止	12	+1	—
	出願校数	22	18	-4	
	出願者数	471	559 ※うち南大阪4人	+88	118.6%
オン キャンパス	科目数	343	367	+24	—
	出願校数	17	18	+1	—
	出願者数	167	299	+132	179.0%

### 課題3 キャリア教育プログラムの充実と支援体制の強化

月	会議	行事等
5	第1回インターンシップ推進委 (11日)	・就業体験型 学生向け説明会(11日) ・就業体験型 学生出願期間(11日~27日)
6		就業体験型 面接・選考(5日)
7	第1回キャリア支援推進準備委 (12日)	・就業体験型 事前研修(3日) ・第1回大学等教職員向けセミナー(20日)
8	第1回部会(2日)	就業体験型 実習期間 (~9月中旬まで)
9	第2回インターンシップ推進委 (7日)	・就業体験型 事後研修・交流会(25日) ・プロジェクト型(舞洲)実習期間 (19日~2023年2月4日) ・第2回大学等教職員向けセミナー(21日)
11		・就活クエスト 第1回(12日) ・プロジェクト型(舞洲)中間報告会(3日)
12	第3回インターンシップ推進委 (5日)	・第3回大学等教職員向けセミナー(6日)
1	第2回キャリア支援推進準備委 (17日)	・就活クエスト 第2回(28日) ・プロジェクト型(舞洲)企画実践(14日・15日)
2	・第2回部会(1日) ・第3回部会(書面開催:17~23日)	・就活クエスト 第3回(25日) ・プロジェクト型(舞洲)最終成果発表会(4日)
3		・就活クエスト 第4回(4日) ・プロジェクト型(起業)(11日~12日)

取組1 就業体験型インターンシップ <https://www.consortium-osaka.gr.jp/career>

目標	・参加した学生が社会人としての心構えや「働くこと」についての理解を深め、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。 ・留学生、障がい学生、社会人学生など多様な学生と社会をつなぐ機会となっている。
数値目標	・学生送り出し大学数：会員大学数の60%以上の参加大学数/各年 ・参加学生数：150人以上/各年 ・受入企業数：100社以上/各年
活動指標	・実施回数：1回/各年
実績	・1回実施

#### 《就業体験型インターンシップ実績》

	出願者数	マッチング数	実習者数		エントリー数	マッチング数	送出数
大学数	19校	17校	16校	受入 企業数	93社	60社	59社
人数	162人	140人	131人				

- ・前年度の実習者数89人(出願者数は154人)に対し、今年度は実習者数131人(出願者数は162人)であり、前年の約1.5倍となった。
- ・受入先は既存の企業等のほか、大阪産業大学の紹介により、計93社(推薦枠を含む)よりエントリーがあり、うち59社に学生を送り出した。コロナ前より減じてはいるものの、多くの企業で対面プログラムを実施いただくなど、学生の学びや体験の機会確保に努めた。
- ・面接および事前研修は前年度同様、オンライン実施したが、実習の振り返りを行う事後研修は、追手門学院大学 総持寺キャンパスにおいて対面で行った。

目標	・参加した学生が現場での経験により、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。 ・学生による提案内容が連携先企業をはじめ、社会的に評価・関心を高めている。
数値目標	・学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年 ・参加学生数：30人以上／各年
活動指標	・プログラム本数：2件以上／各年
実績	・2件実施 ・舞洲スポーツイノベーションプロジェクト（2022年9月～2023年2月） ・起業インターンシップ（2023年3月）

《舞洲スポーツイノベーションプロジェクト》

日 時	2022年9月19日（月）～2023年2月4日（土）
会 場	武庫川女子大学 メディアホール他（オンライン併用）
共 催	舞洲プロジェクト（大阪エヴェッサ、オリックス・バファローズ、セレッソ大阪、大阪市）
ファシリテーター	上原 光徳氏（舞洲プロジェクト人材育成事業担当）
参加者数	6大学17人

- ・大阪市を本拠地とする男子バレーボールチーム「サントリーサンバーズ」の事業課題に対し、ビジネスプランを提案・実施する「第2回舞洲スポーツビジネスコンテスト」に挑戦した。
- ・参加2チームの取り組み課題は集客（チームバース）および地域活性化（チームwill）。



中間報告会



学生募集チラシ

《起業インターンシップ》

日 時	2023年3月11日（土）・12日（日）
会 場	キャンパスポート大阪
講 師	公益財団法人大阪産業局 イノベーション推進部 次長・ スタートアップ創出チーム リーダー 松出 晶子氏 株式会社ニューラルポート 代表取締役社長 島藤 安奈氏 株式会社 Monozukuri Ventures CEO 牧野 成将氏
ゲストスピーカー	大阪工業大学 大学院 宮田 祈氏
コーディネーター	大阪経済大学 経営学部 教授 吉野 忠男氏
協 力	大阪イノベーションハブ（OIH）
参加者数	7大学13人

- ・大阪イノベーションハブやKANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix 連絡協議会との連携のもと、「アクティブ・ラーニングの具現化」、「with コロナ時代の新たな進路に関する意識啓発、やる気の創出」を目的に、起業という新たな視点から、働くことを考える機会を提供した。
- ・2日間にて講義・講演とグループワークを組み合わせ、対面にて実施した。

取組3 就活クエスト in OSAKA (旧 オンラインプログラム)

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/career/quest>

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参集型では難しかった遠隔地や特殊な現場など、これまで知る機会がなかった仕事について、学生が具体的なイメージを持つことができている。</li> <li>・ 学生が、プログラムを通じて企業活動の意義とそこで働く人の役割の一端を理解している。</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年</li> <li>・ 参加学生数：60人以上／各年</li> </ul>
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施回数：3回以上／各年</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2022年10月以降、4回実施</li> </ul>

- ・ 早期から実社会に触れることによる学修の深化や主体的な職業選択、また高い職業意識の涵養を目的として低年次学生を主対象に各1~2日間のワークショップ形式にて全4回実施する。
- ・ 大阪商工会議所との連携のもと、プログラムを通じて学生が大阪の産業構造を知り、府内の中小企業の魅力に触れる機会を提供する。

《就活クエスト in OSAKA 実績》

回・開催日	テーマ・会場・講師等・参加者数
第1回 (11月12日)	テーマ：IT企業「文系でもIT企業で活躍できるって本当?!」 会場：キャンパスポート大阪 講師：トンガルマン株式会社 アカウントプランナー 大淵 まき子氏 取締役CTO 村松 卓宏氏 ファシリテーター：大阪樟蔭女子大学 学芸学部 講師 高松 直紀氏 参加者数：6大学11人（会員外1大学1人を含む）
第2回 (1月28日)	テーマ：自己分析「就職と“好き”を組み合わせるには?!」 会場：キャンパスポート大阪 講師：カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 SBカンパニー スターボックス運営本部 SB運営 近畿エリア ストアマネージャー 北岡 美緒氏 ファシリテーター：四天王寺大学 キャリアセンター 副センター長 経営学部 准教授 隅田 孝氏 参加者数：9大学14人
第3回 (2月25日)	テーマ：大阪の企業①「大阪で働くということ」 会場：キャンパスポート大阪 講師：池田泉州銀行 ソリューション営業部 海外ビジネスグループ 次長 齋藤 佑樹氏 エース株式会社 財務経理部 サブマネージャー 村上 麻里氏 ファシリテーター：大阪商工会議所 人材開発部 研修・採用支援担当 上田 真也氏 共催：大阪商工会議所 参加者数：8大学12人
第4回 (3月4日)	テーマ：大阪の企業②「大阪の企業活動を知る」 会場：大阪企業家ミュージアム 講師・ファシリテーター：大阪商工会議所 人材開発部 大阪企業家ミュージアム 次長 阿部 真弓氏 共催：大阪商工会議所 参加者数：5大学9人

第1回の様子



取組4 キャリア支援事業

目標	・時宜に応じたキャリア支援の課題に会員大学が連携して対応している。 (就職に困難性のある学生に対する支援、学生の多様性に対する支援など) ・就職支援のための関連団体との連携が拡大し、充実した支援を実施している。
数値目標	・参加大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数/各年
活動指標	・開催回数：1回以上/各年
実績	・「大学等教職員向けセミナー」全3回開催 ・「三省合意改正を踏まえた企業動向と今後の対応策に関する意見交換会」開催

【大学等教職員向けセミナーの開催】

- ・大阪府、南大阪地域大学コンソーシアムとの共催で、発達障がい傾向を有するなど就職困難性が高く、支援を要する学生に対する支援方法について理解を深めることを目的に、「大学等教職員向けセミナー」を開催した。

《大学等教職員向けセミナー実績》

回・開催日	テーマ・会場・講師等・参加者数
第1回 (7月20日)	テ ー マ：「要支援学生の就職・キャリア支援について考える」 会 場：オンライン (ZOOM) 講 師：京都大学 学生総合支援機構 准教授 村田 淳氏 パネリスト： 四天王寺大学 キャリアセンター 永井 博嗣氏 阪南大学 学生相談室 長田 岳大氏 参加者数：57人 (うち会員16人 大学28人)
第2回 (9月21日)	テ ー マ：「要支援学生の支援機関について知る」 会 場：オンライン (ZOOM) 講 師：株式会社エンカレッジ 山本 愛子氏 参加者数：30人 (うち会員10人 大学16人)
第3回 (12月6日)	テ ー マ：「要支援学生の就職・キャリア支援を検討するワークショップ」 会 場：エル・おおさか本館11階セミナールーム 講 師：京都大学 学生総合支援機構 准教授 村田 淳氏 参加者数：17人 (うち会員5人 大学6人)

【三省合意改正を踏まえた企業動向と今後の対応策に関する意見交換会の開催】

- ・2022年6月の三省合意の改正を受けて、インターンシップの取り扱いが大きく変わることとなり、その対応に各大学が苦慮していることから、株式会社リクルートの協力を得て、標記意見交換会を2023年3月に開催した。



## 課題4 国際交流の活性化

月	会議	行事
5	第1回推進委（16日）	
6		学生英語プレゼンコンテスト発表者募集開始（20日～）
7	第1回部会（14日）	
9		・第1回グローバル人材育成講座（5～8日） ・学生英語プレゼンコンテスト運営メンバー募集開始
10	第2回推進委（19日）	
11		・学生英語プレゼンコンテスト（27日） ・大阪のまちあるきツアー企画学生募集開始
12		・大阪のまちあるきツアー企画学生活動開始（2日～）
1	第2回部会（30日）	
2	第3回部会（書面開催：13～20日）	
3	第3回推進委（14日）	・第2回グローバル人材育成講座（6、7日） ・大阪のまちあるきツアー実施（30日予定）

### 取組1 他国・他地域との交流事業

目標	・明確な目的をもって、国際交流事業を実施している。 ・さまざまな交流プログラムを検討・実施している。
数値目標	・交流事業数：延べ5事業／計画期間
活動指標	・交流事業開催回数：1回以上／各年（再開以降）
実績	・交流再開に向けて検討中

- ・これまで大学コンソーシアム大阪で実施してきた台湾との交流実績を踏まえて、対象を教職員や学生に拡大し海外・他地域も含めた交流について、台湾の高等教育国際合作基金会の意向を確認しながら引き続き検討中である。

### 取組2 グローバル人材育成講座 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/global>

目標	・日本の現状と課題を認識し、グローバルな社会課題の解決策を考えるきっかけとなっている。 ・多文化共生・異文化理解、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）という価値観を育む機会となっている。
数値目標	・講座受講者数：延べ300人以上／計画期間内
活動指標	・講座開催回数：2回以上／各年 ・国際交流イベント開催回数：1回以上／各年
実績	・講座：2回開催（第1回：2022年9月、第2回：2023年3月） ・国際交流イベント：1回開催予定（2023年3月、大阪のまちあるきツアー）

- ・2025年に開催される大阪・関西万博をテーマに2回実施した。

#### 《第1回開催概要》

テーマ：大阪万博を舞台に、自分の「グローバル」を探求する ～大阪・関西万博の自分ごと化を通じて、より良い未来づくりに活かすアイデアを共創する4日間～ 日 時：2022年9月5日～8日の計4日間 運 営：一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT） 受講者数：受講者数：8大学17人 ※うち留学生2人
--

《第2回開催概要》

テーマ：2025年大阪・関西万博×レゴ®シリアスプレイ®・メソッド  
 レゴ®シリアスプレイ®・メソッドで未来社会をデザインする  
 日時：2023年3月6日、7日 計2日間  
 講師：Mark SHEEHAN氏（阪南大学 国際コミュニケーション学部 教授）  
 受講者数：8大学21人 ※うち留学生8人

《国際交流イベント》

・身近なまち「大阪」のまちあるきを通じて、国内学生・留学生それぞれの大阪観や日本観を共有することにより、異文化交流に対する理解を促し、新たな気付きや価値観の獲得に寄与するため、「大阪のまちあるきツアー」を実施する。ツアー企画・運営は有志学生が行い、現在13人が2023年3月実施にむけて活動している。

＜企画学生＞

	申込者	選出数
大学数	8	8
人数	37 (5)	13 (2)

※ ( ) はうち留学生数



企画学生募集チラシ

取組3 学生英語プレゼンテーションコンテスト

[https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/en\\_presentation](https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/en_presentation)

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が発表に至るまでにグループワークを重ね、プレゼンテーションスキルを学ぶ機会となっている。</li> <li>・国際共通語としての「英語」を用いて、国際的な共通課題の解決策を斬新な発想で考え、意見交換する機会となっている。</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出場チーム数：15チーム以上／各年</li> <li>・参加者数：英語圏以外の留学生の参加増／計画期間内</li> </ul>
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催回数：1回／各年</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回開催（2022年11月）</li> </ul>

- ・高い国際意識やコミュニケーションスキルをもつ若者の育成に寄与することを目的に、今年度は下記のとおり開催した。
- ・3年ぶりに有観客とし、YouTubeのライブ配信により、来場できない方に向けて観覧が可能なよう機会提供を行った。

開催日時：2022年11月27日（日）10：00～16：40  
 会場：グランフロント大阪 北館タワーC8階  
 ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC RoomC01+C02  
 発表テーマ：2025年に日本国際博覧会（大阪・関西万博）が「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げ開催されます。本コンテストでは、大阪の学生が、未来社会をデザインする主役として、大阪・関西万博が掲げる3つのサブテーマのいずれかに繋がる、SDGs達成に向けた具体的な提案を発表してください。学生が協働し、実行可能なアイデアを盛り込んでください。

応募チーム数	発表チーム数	発表大学数	発表学生数
12	11	7	32

<学生運営メンバー>

	応募者	選出数
大学数	7	6
人数	28 (5)	9 (2)

※ ( ) はうち留学生数



コンテスト後 記念撮影

## 課題5 地域連携の促進による大阪・関西の活性化

月	会議	行事等
4		
5		
6	第1回推進委員会（14日）	地域連携学生フォーラム 学生運営メンバー募集 地域連携学生フォーラム 発表者募集開始(23日)
7	第1回部会（11日）	
8		学生運営メンバーキックオフミーティング（8日）
10		地域連携学生フォーラム（23日）
11	第2回推進委員会（9日）	
12		地域連携学生ワークショップ（17日）
2	・第2回部会（2日） ・第3回部会（書面開催：20～24日）	地域連携交流サロン（22日）

### 取組1 地域連携 学生フォーラム in Osaka

[https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/gakusei\\_forum](https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/gakusei_forum)

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に起こっている。</li> <li>・学生の提案事項や連携のノウハウが蓄積され、それらを会員大学や自治体が共有している。</li> <li>・大阪・関西万博に向けて、学生がつながり、関わる場となっている。</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表大学数：会員大学数の50%以上の参加大学数／計画期間内</li> <li>・参加する行政・事業所数：15団体以上／計画期間内</li> </ul>
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催回数：1回／各年</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーラム：1回開催（2022年10月）</li> <li>・フォーラムに関連する学生ワークショップ：1回開催（2022年12月）</li> </ul>

#### 【地域連携 学生フォーラム in Osaka】

- ・会員大学の学生自らが取り組む地域活動（ゼミ活動やボランティア等）について発表し、交流を深めることを目的としたフォーラムを継続開催している。
- ・今年度は10月23日に開催し、4大学4事業の発表があった。
- ・現地会場のほか、当日の様子をYouTubeでライブ配信し、広く参加いただけるよう配慮した。
- ・フォーラムの開催にあたり、有志による学生運営メンバーが8月初旬から本番までの約3か月の間、企画検討や事前交流会、当日の運営等の活動を行った。

#### <開催概要>

開催日時：2022年10月23日（日）13:00～17:00  
 会場：グランフロント大阪 北館タワーC8階  
 ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC RoomC01+C02  
 テーマ：大阪の大学生発！私たちのアイデアでまち・地域を元気UP！

#### <発表事業数>

大学数	事業数
4	4

#### <学生運営メンバー>

大学数	人数
6	13



学生フォーラムの様子

【地域連携 学生ワークショップ】

- ・ 昨年に引き続き、地域連携 学生フォーラムのスピノフ企画として、地域連携に興味・関心のある学生を主な対象にワークショップを開催した。
- ・ 今回は近畿経済産業局の協力を得て、2025 年大阪・万博から想起する未来の大阪を考える企画とした。

開催日時：2022年12月17日（土）13:00～17:00  
 会場：キャンパスポート大阪  
 テーマ：未来ゼミ 2025 大阪・関西万博の未来～若者のアイデアで未来の大阪を救おう～  
 講師：近畿経済産業局 2025NEXT 関西企画室 石原 康行氏、田中 駿来氏

	申込者	参加者
大学数	6（うち会員外 1）	5
人数	20（うち会員外 2）	16



ワークショップの様子



取組 2 地域連携 情報交換会 [https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/info\\_meeting](https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/info_meeting)

目標	・ 大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に生まれている。
数値目標	・ 参加大学数：会員大学数の 50%以上の参加大学数／計画期間内 ・ 参加する行政・事業所数：10 団体以上／計画期間内
活動指標	・ 開催回数：1 回以上／各年
実績	・ 1 回開催（2023 年 2 月） ・ 参加者数：3 大学 5 人、自治体 6 人、中間支援組織 6 人、一般 1 人 計 18 人

- ・ 今年度より、地域連携をテーマに大学や自治体等の意見交換や情報交換を行う交流サロンを新たに開催することとなった。
- ・ 今回は、サロンのキックオフとして、大阪公立大学（旧大阪府立大学）のボランティアセンターの取組事例を共有いただきながら、地域と学生（大学）をつなげる大学のボランティアセンターについて考える内容として、2023 年 2 月に開催した。

## 【地域連携交流サロン】

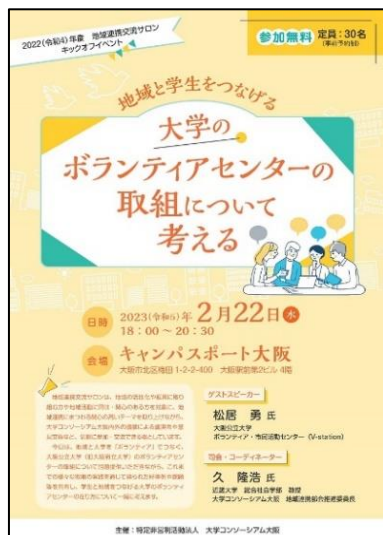
開催日時：2023年2月22日（水）18:00～20:30

会場：キャンパスポート大阪

テーマ：地域と学生をつなげる大学のボランティアセンターの取組について考える

ゲストスピーカー：大阪公立大学 ボランティア・市民活動センター(V-station) 松居 勇氏

コーディネーター：近畿大学 総合社会学部 教授 久 隆浩氏



地域連携交流サロンの様子

## 課題6 研修による大学教職員の資質向上とネットワーク強化

月	会議	行事
4	第1回推進委（14日）	
6		初任者SD研修（第1回）（17日）
7	第1回部会（5日）	
8	第2回推進委（29日）	
9		初任者SD研修（第2回）（14日）
10		サロン（第1回）（28日）
11		ID研修（オンデマンド研修）（2日より公開） サロン（第2回）（30日）
12		初任者SD研修（第3回）（2日）
1		
2	・第2回部会（15日） ・第3回部会（書面開催：20～24日）	サロン（第3回）（27日）
3	・第3回推進委（2日）	

### 取組1 各種研修

目標	・会員大学のニーズに応じた研修を実施している。 ・研修講師を担える人材の育成が図られている。
数値目標	・教職員送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年
活動指標	・実施回数：2回以上／各年
実績	・初任者SD研修：3回実施 ・インストラクショナルデザイン（ID）研修：オンデマンドにて提供

【初任者SD研修】 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/sd>

- ・大学職員としての基礎知識（ビジネスマナー、高等教育の現状把握、所属大学の理解促進等）を学び、実際の現場で生かすことができる力を身につけることを目的に、講義形式の研修を今年度は3回にわたって実施した。（第1回と第3回は対面、第2回はオンライン）

### 《実績》

回・開催日	テーマ	講師 (いずれも推進委員)	受講者
第1回 (6月17日)	大学職員の心得を知り、 視野を広げる	岡本 千代恵氏 (関西福祉科学大学 教務部)	15 大学 37 人
第2回 (9月14日)	自分の大学を知ろう！	佐藤 浩輔氏 (大阪体育大学 庶務部学長室担当)	13 大学 25 人 (うち会員外2 大学2人)
第3回 (12月2日)	大学組織に求められている 事項を知り、参加者それぞ れの業務を考える	岡本 千代恵氏 (関西福祉科学大学 教務部) 城戸 直也氏 (追手門学院大学 総務部人事課 主任)	9 大学 19 人 (うち会員外1 大学1人)



初任者SD研修（第1回）の様子

【インストラクショナルデザイン（ID）研修】

- ・大学職員を対象に、教え方のセオリーを学びながら、そのノウハウを自大学のSD研修の企画や業務で活かしていただく事を目的に、11月2日よりオンデマンド形式にて提供している。
- ・講師を研修部会推進副委員長の宮原 秀明氏（大阪学院大学 大学事務長）が務め、人事担当のほか、教えることを企画し実施する業務担当者にも活用いただける内容としている。

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/sd/id/> （研修概要）

<https://donow2016.com/id/2022/> （研修詳細）

取組2 Salon De 大学コンソーシアム大阪（SD勉強会）

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/salon>

目標	・参加者が主体的に情報交換や交流を行っている。
数値目標	・会員大学の参加率：会員大学数の60%以上の参加大学数/各年
活動指標	・開催回数：3回以上/各年
実績	・3回開催

- ・昨年度に引き続き「学生支援」をテーマに下記のとおり開催した。（第1・2回 オンライン、第3回 対面とオンラインのハイブリッド）

《開催スケジュール》

回・開催日	テーマ・講師	参加者
第1回 (10月28日)	「メタバース」がもたらす教育方法の大転換 矢野 浩二郎氏(大阪工業大学 情報科学部 准教授)	18大学30人 (うち会員外7大学9人)
第2回 (11月30日)	障害のある学生への学習支援の考え方 山崎 めぐみ氏(創価大学 障害学生支援室長)	15大学27人 (うち会員外5大学5人)
第3回 (2023年2月27日)	語ろう 私の能力開発・スキルアップの方法 事例紹介者： 葛西 崇文氏(大阪女学院大学 事務局 教務・学生課(教務担当)課長) 小林 諒太郎氏(大阪経済大学 総務部人事課) 加藤 敦也氏(大阪産業大学 人事部人事課)	15大学21人 (うち会員外4大学5人)



サロン チラシ



サロン（第1回）の様子



## 課題7 大阪の様々な課題に対応した取り組みの拡充

月	会議	行事
6	第1回協議会 (21日)	
7	第1回分科会1 (29日)	集まれ大学生！フリーディスカッション (10日) ※
8	第2回分科会1 (26日)	公開講座 第1回 (26日)
9	第3回分科会1 (9日)	・響け！大学生の声！フリーディスカッション (17日) ※ ・公開講座 第2回 (9日)、第3回 (21日)、第4回 (30日) ・FD研修 (28日) ・リカレントプログラム (～12月)
10	第4回分科会1 (7日)	・公開講座 第5回 (18日) ・提案型研究事業 実施期間 (1日～2月末日) ・タイプ3申請 (31日までに)
11	第2回協議会 (7日) 第5回分科会1 (25日)	
12	第6回分科会1 (16日)	
1	第7回分科会1 (20日)	
2	第8回分科会1 (24日)	大阪の大学 Cafe (19日) ※
3	第9回分科会1 (10日) 第3回協議会 (17日)	活動報告会 (10日)

※は大学コンソーシアム大阪会員大学の有志学生から成る「ACT」により企画・運営

取組1 学生ボランティアの拡充 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/volunteer>

目標	・事業の企画運営に学生が主体的に関わる機会が創出されている。
数値目標	・学生の参加数：各部会事業への企画・運営に関わった学生数延べ 200人／計画期間内
活動指標	・既存事業やその他事業へ学生ボランティア参画：2事業以上／各年
実績	・5事業実施：地域連携学生フォーラム、学生英語プレゼンコンテスト、国際交流イベント（大阪のまちあるきツアー）、ACT 2事業（学生座談会、高校生向けイベント）

- ・地域連携や国際交流のイベント運営への有志学生の参画の他、2021年度より新たに学生ボランティアチーム「ACT」を発足し、様々な大学の学生が集いながら学生の自由な発想によるイベント開催に繋げている。
- ・コロナ禍で活動自粛を余儀なくされた学生がこの取組を通じて主体的に活動する面白さを発見する機会となり、さらに参画学生数、活動の質ともに拡充すべく継続予定である。

インカレ学生ボランティアチーム ACT の活動の様子



## 取組2 連携調査・研究の実施

目標	・大学間、また産官学の連携による調査や研究が恒常的に実施されている。
数値目標	・連携調査・研究実施数 延べ15件／計画期間内
活動指標	・連携調査・研究テーマ数 2テーマ以上／各年
実績	・調査：3テーマ（調査：薬物、高校生の進路検討に関するニーズ調査、リカレント） ・研究：1テーマ 中期計画推進に係る提案型研究事業（2件採択）

- ・今年度の取組として3つのテーマ（新生対象薬物意識調査、高校生の進路検討に関するニーズ調査、会員大学のリカレントプログラムの実施状況等に関する基礎調査）の調査を実施した。
- ・2年目となる「新生対象薬物意識調査」は、薬物乱用防止のための啓発も兼ねて実施し、調査結果から大学への入学段階において、薬物使用に関して甘い認識を持っている学生や薬物使用を現認している学生が一定数いることが把握できた。今後の方向性として、大学のみならず産業界、自治体と一体となった薬物乱用防止に関する啓発活動が求められており、検討を進めている。
- ・リカレントプログラムの実施状況等に関する基礎調査については、大阪商工会議所と共同で2022年12月にプレス発表を行った。
- ・中期計画推進に係る提案型研究事業には、4件の応募中、2件採択され、現在推進中である。

### <採択事業>

- ・大学連携によるSDのあり方 ―管理職者研修の実施に向けて―  
（大阪女学院大学★・大阪学院大学・大阪電気通信大学）
- ・「主体的・対話的・深い学び」のための授業スキルに関する実態調査およびその研修の効果検証  
（摂南大学★・大阪信愛学院大学・大阪国際大学）

※★は研究代表大学

## 取組3 地域課題に対応した取り組みの推進

目標	・産官学連携による課題解決体制が整備されている。
数値目標	・実施事業数 延べ5事業／計画期間内
活動指標	・実施事業数 1事業以上／各年
実績	・4事業実施 （大阪府内地域連携プラットフォーム主催FD研修、公開講座、リカレントプログラム、活動報告会）

### 【大阪府内地域連携プラットフォームの取組】 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/platform>

- ・今年度はFD研修、公開講座、リカレントプログラムを開催・実施した。
- ・今回初開催となるFD研修では「大学授業におけるICTの活用の方策」をテーマに、2022年9月下旬に開催した。

### <FD研修>

開催日時：2022年9月28日（水）15：30～17：00
会場：ZOOM（オンライン）
テーマ：「ウィズコロナ時代のICTを活用した大学授業の新たな挑戦」
講師：大阪大学 サイバーメディアセンター 教授 岩居 弘樹氏

- ・公開講座では大阪の課題や注目度の高いテーマと大学の特色を掛け合わせ、リレー方式で開講した。

### <公開講座> ※すべてオンラインにて開催

回	開催日程	テーマ	講師
1	8月26日（金） 13：00～14：30	住み続けられるまちづくり	大阪国際大学 経営経済学部 経済学科 准教授 早川 公氏
2	9月9日（金） 13：15～14：15	世界遺産の未来 増え続ける「遺産」から世界をどう読み解くか？ ※四天王寺大学オープンカレッジと共催	四天王寺大学 人文社会学部 日本学科 講師 森嶋 俊行氏

3	9月21日(水) 15:00~16:00	スポーツビジネスの最前線	大阪体育大学 学長 原田 宗彦氏
4	9月30日(金) 17:00~18:00	「いのち輝く」を問う： 医療系大学が取り組む社会貢献とSDGs活動を考える	大阪医科薬科大学 社会貢献・SDGs推進室長・ 医学部胸部外科学教室 専門教授 根本 慎太郎氏
5	10月18日(火) 18:00~19:30	賃金と物価 ーインフレは賃金上昇の特効薬となるのかー	大阪経済大学 経済学部 教授 高橋 亘氏

- ・リカレントプログラムの提供として、今年度は「ITスキル」の向上を目的とした現職の社会人向けオンラインプログラムを2022年9月より約3か月間にわたり開講した。

<p>開催日時：2022年9月中旬～12月下旬まで 講座名：ITパスポート資格取得講座（オンデマンド講座） 対象：現職の社会人 受講者数：6人</p>
---

#### 【大阪府内地域連携プラットフォーム 活動報告会】

- ・大学コンソーシアム大阪及び大阪府・市・大阪商工会議所との連携による取組を広く発信しながら、参加者による意見交換を目的とした活動報告会を2023年3月に開催した。
- ・今回は「学生ボランティア」をテーマに、コロナ禍においても自発的な活動に継続的に取り組む学生が2年間にわたる活動概要について発信し、ウィズ／アフターコロナ時代の学生ボランティアの在り方について参加者ともに考える機会とする。

#### 【分科会1の設置と私立大学等改革総合支援事業（タイプ3・プラットフォーム型）の申請】

- ・2022年5月に開催した第16回通常総会において、今年度も私立大学等改革総合支援事業（タイプ3・プラットフォーム型）に申請することが全会一致で承認された。これを受けて大阪府内地域連携プラットフォーム協議会のもとにタイプ3申請に関する検討等を行う「分科会1」を設置し加点に向けた取組を進め、5年連続選定の快挙を遂げた。（取組内容は前項目のとおり。）

#### 取組4 大阪・関西万博との連携

目標	・万博への積極的な参画を通じて大阪・関西の活性化に寄与している。
数値目標	・実施事業数 延べ10事業／計画期間内
活動指標	・実施事業数 2事業以上／各年
実績	<p>3事業実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生英語プレゼンテーションコンテスト（万博をテーマに）：2022年11月開催</li> <li>・グローバル人材育成講座（第1回・第2回）</li> <li>・地域連携 学生ワークショップ（万博をテーマに近畿経済産業局と連携）：2023年12月開催</li> </ul> <p>※別途、万博協会、万博推進局、近畿経済産業局と事業連携に関する意見交換を実施。</p>

- ・大阪・関西万博開催まであと3年となる中、当プラットフォーム内外で連携の機運が高まっており、会員大学間や大阪府内地域連携プラットフォームの枠組みからさらにネットワークを広げた具体的な連携事業の創出に繋げている。

## 課題8 その他

#### 【日本インターンシップ学会 関西支部研究会の共催（2022年12月）】

- ・今回は「インターンシップにおける連携のあり方を考える」をテーマに、和歌山大学からは大阪府消費生活センターや大学コンソーシアムと連携した「大学生期における消費者教育推進事業の取組」に関する事例共有、また追手門学院大学の主導による三省合意改正を受けた今後のインターンシップの在り方について、企業や中間支援組織である大学コンソーシアムの立場からの見解を踏まえた意見交換を行った。